

『免疫チェックポイント阻害薬の適正使用に関する研究』

のお知らせ

はじめに

免疫チェックポイント阻害薬は、これまで複数のがんで治療効果が報告されているがん治療薬です。これは自己の免疫細胞を活性化してがん細胞を攻撃するものであり、がん細胞に直接的に作用する従来の抗がん剤とはまったく異なる作用を有しています。日本では2014年9月から悪性黒色腫に対してオプジーボが承認されて以来、現在までに8種類の免疫チェックポイント阻害薬が複数のがん（胃がん、食道がん、胆管がん、肝臓がん、肺がん、腎細胞がん、膀胱がんなど）に対して使用されています。

免疫チェックポイント阻害薬は従来の抗がん剤と比べて副作用の頻度は少ないと言われていますが、その一方で、自己免疫の過剰反応を引き起こすことによる免疫関連有害事象（irAE）が生じることがあります。irAEはあらゆる臓器で多彩な症状を呈することが知られており、ときに重篤となり、専門性の高い治療が必要となります。irAEの重症化を回避して、免疫チェックポイント阻害薬による治療の継続に努めることが、がんに対する治療効果を確保するうえで重要だと考えています。

本研究では、当院における免疫チェックポイント阻害薬の使用状況を調査し、その使用方法やirAE発生時の対応が適切か否かを検証することで、患者さんに今後より質の高いがん治療を受けていただくことを目的としています。

対象

2016年4月から2023年4月までの期間に、当院で免疫チェックポイント阻害薬の投与をされた患者さんを対象とします。

方法

電子カルテ情報をもとに患者さんのデータ（性別・年齢・病名・基礎疾患・投与された免疫チェックポイント阻害薬の種類・治療期間・治療効果・副作用発現の有無など）を使用しますが、調査結果で個人が特定されることはありません。

研究機関

院長承認日から 2025 年 3 月 31 日

調査について

研究費の助成などは受けていません。

研究の結果は、学会で発表することがありますので、ご了承ください。

あなたの情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記連絡先までお申し出ください。その場合、不利益が生じることはありません。

連絡先 ご不明な点は、下記までご連絡ください。

〒051-8512 北海道室蘭市山手町 3 丁目 8 番 1 号

TEL：0143-25-3111 内線 2501（内科外来）

市立室蘭総合病院 消化器内科

研究責任者：大和田紗恵

研究分担者：清水晴夫、伊早坂舞、中村隼人、小野寺優奈